

あなたならどうしますか？

～障害者に対する配慮や支援について考えよう～

障害者の
人権問題

ねらい

誰もが住みよい社会にするために、私たち一人一人が障害者の立場に立った支援を理解し、障害者に対してどのような配慮が必要なのかを考えます。

活動の進め方

1 「うれしさ」を感じるような人と人との関わりについて確認します。

- (1) 順番に自己紹介を行い、「名前」と「最近人にしてもらって、うれしかったこと」について話をします。
- (2) 「名前」の紹介は、前に自己紹介した人の名前をつなげるリレー形式で行います。
例：〇〇さんの隣の△△です。 〇〇さん隣の△△さん隣の□□です。
- (3) 他のメンバーはいっしょに喜んだり、拍手をしたり、うなずいたりします。
- (4) 自己紹介をとおして、共感的・受容的な雰囲気を作ります。

2 イラストの中に描かれている人物が思っていることを考えます。

- (1) イラストA・Bを見て、描かれている人物がどのような状況にあるのか確認します。
イラストA：信号が赤になりそうなので急いで横断しようとする、白杖を持った方が横断していました。
イラストB：エレベーターに乗っていると、エレベーターの前に車いすに乗っている方がいました。
- (2) イラストA・Bの中で、①～④の人物が思っていることについて考え、ワークシートに書きます。
- (3) グループ内で、ワークシートに書いたことをそれぞれ発表します。
・他人の発表を聞いて気付きがあったときは、ワークシートに書いておきます。

3 それぞれの障害者にどのような配慮や支援ができそうか考えます。

- (1) イラストA・Bの障害者に対して、私たちはどのような配慮や支援ができそうかについて考え、ワークシートに書きます。
- (2) グループ内でワークシートに書いたことをそれぞれ発表し、意見を共有します。
- (3) 障害者に関するマークの意味を確認します。
・白杖 SOS シグナル ・障害者マーク（車いすマーク）
- (4) マークの意味を理解し、適切な配慮を行うことは、相手の人権の尊重につながることを確認します。

4 今日の活動をふりかえり、意見を共有します。

- (1) 「視覚障害とクライミング」というエピソードを聞きます。
- (2) 学習をとおして考えたことや気付いたこと、感じたことをワークシートに書きます。
- (3) ワークシートに書いたことを発表し、全体で共有します。

時 間	50～60 分	準備するもの	ワークシート、資料 2（学習者数） 資料 1（グループ数、大きめに印刷） 資料 3（読み上げ用 1 枚）
-----	---------	--------	--

ファシリテーターの言葉かけ例（留意点）

<活動 1> アイスブレイキング 時間：15 分

- (1) まず、グループ全員で簡単な自己紹介と、気持ちをほぐすためにお話をしましょう。自己紹介は、前の方の名前をリレーのようにつないでいきます。「〇〇さんの隣の△△です。」「〇〇さんの隣の△△さんの隣の□□です。」というやり方です。
- (2) その後に、「最近人にしてもらって、うれしかったこと」をお話してください。聞いている方は、共感したり感心したりすることには、拍手をしたりうなずいたり、話している方に反応を返してください。
時間は 1～2 分程度でお願いします。
- (3) (8 分後) 人にしてもらって「うれしい」と感じるような関わりをするためには、どのようなことが大切だと思いましたか。(数名に聞く)

<活動 2> メインアクティビティ 時間：15 分

- (1) ワークシートを御覧ください。ここに二つの場面が描いてあります。(資料 1 を示す)
A は「信号が赤になりそうなので急いで横断しようとする時、白杖を持った方が横断していた」ところです。B は「エレベーターに乗っていると、エレベーターの前に車いすに乗っている方がいた」ところです。
- (2) A・B 中の①から④の人たちは、どのようなことを思っていると考えますか。
ワークシートの「思っていること」の欄に書いてください。
- (3) (5 分後) ワークシートに書いたことを、グループ内でそれぞれ発表してください。発表を聞く方は、発表者の考えを尊重し、なるほどと思ったことは自分のワークシートに書いてください。

<活動 3> メインアクティビティ 時間：15～20 分

- (1) イラスト A・B の障害者に対して、あなたなら、どうしますか。ワークシートの矢印の下の欄にそれぞれ書いてみてください。
- (2) (5 分後) ワークシートに書いたことを、グループ内でそれぞれ発表してください。
(先ほどのグループ発表と同じように、他の方の意見を書き残してください)
- (3) (10 分後) (資料 2 を示す) 資料 2 には、一例として「白杖 SOS シグナルシンボルマーク」や「障害者のための国際シンボルマーク」を掲載しています。こうしたマークの意味や意義を理解し、適切な配慮を行うことは、相手の人権を尊重することにつながると言えるのではないのでしょうか。

<活動 4> ふりかえり 時間：10～15 分

- (1) ここで、「視覚障害とクライミング」というエピソードを、皆さんに紹介します。(資料 3 を読んで伝える)
- (2) 今日の活動をとおして、考えたことや気付いたこと、感じたことは何でしょうか。ワークシートに記入してください。
- (3) (5 分後) ワークシートに書いたことを発表してください。(グループの代表でもよい) 障害のある方もそうでない方も、誰もが住みやすい社会を目指すために、今日のワークショップで考えたこと、気付いたことを、これからの生活で生かせるといいですね。

あなたならどうしますか？

イラストのような場面では、①から④の方はどのようなことを思うでしょうか。また、そのような場面で、「あなたなら、どうしますか？」。

イラストA

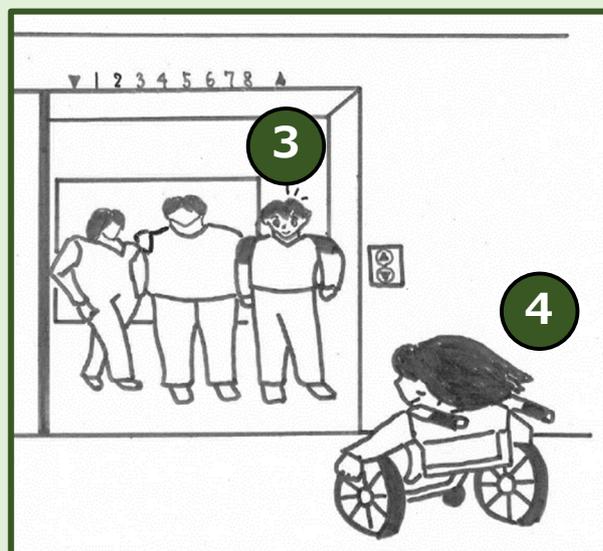


【①の方が思っていること】

【②の方が思っていること】

【あなたが①の方の立場なら、
どうしますか？】

イラストB



【③の方が思っていること】

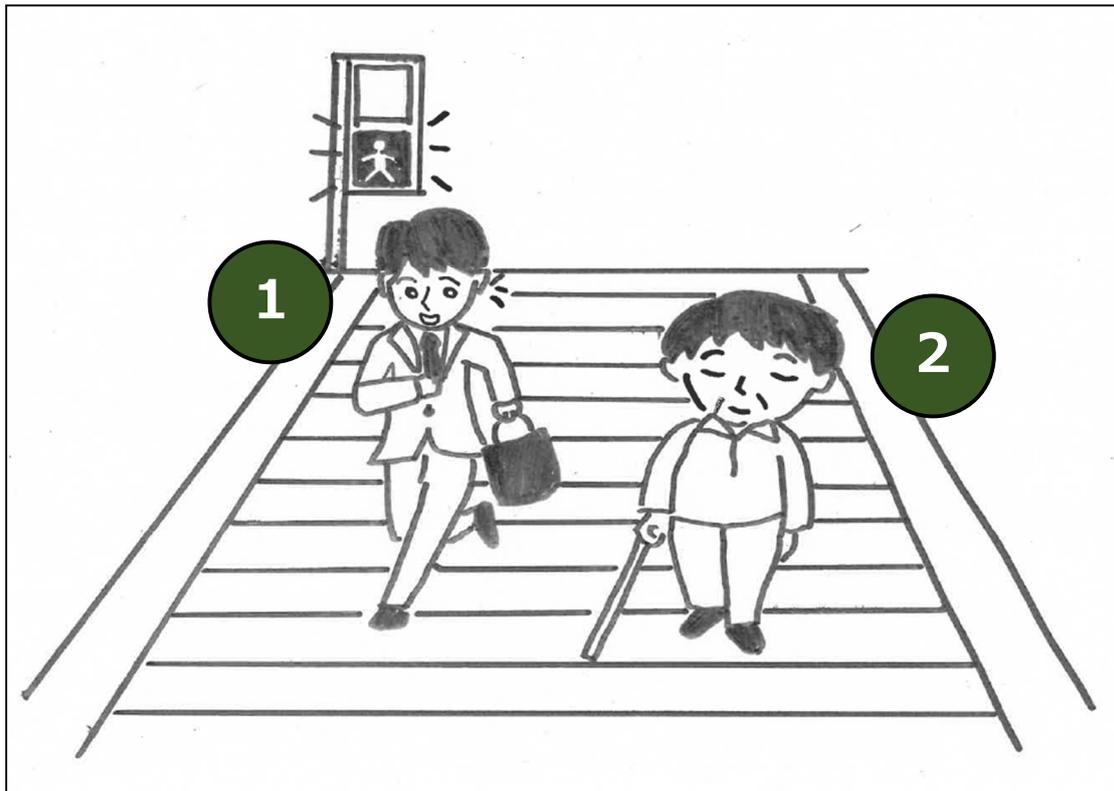
【④の方が思っていること】

【あなたが③の方の立場なら、
どうしますか？】

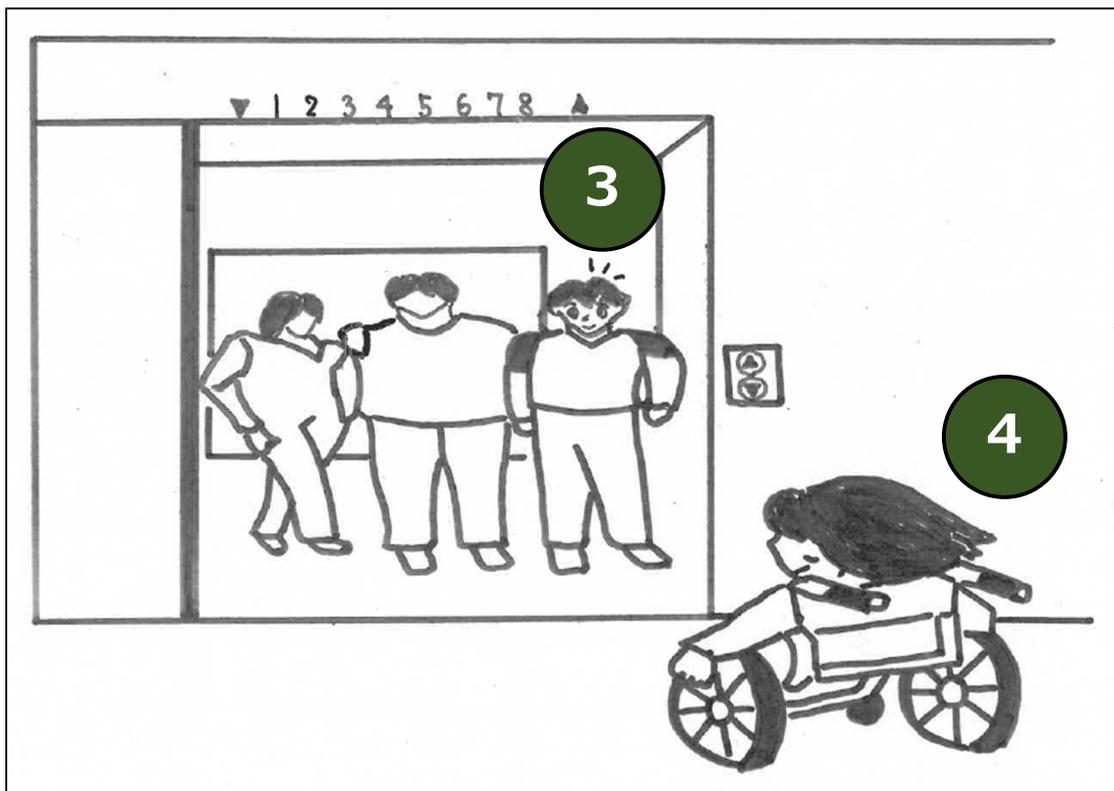
ふりかえり（この活動で、どのようなことを考え、気づき、感じましたか。）

登場人物の気持ちを考えましょう

イラストA



イラストB



障害者に関するマーク



「白杖SOSシグナル」普及啓発シンボルマーク

視覚に障害のある人を見かけたら、進んで声をかけて支援しようという「白杖SOSシグナル」運動の普及啓発シンボルマークです。白杖を頭上50cm程度に掲げてSOSのシグナルを示している様子を表しています。

※駅のホームや路上などで視覚に障害のある人が危険に遭遇しそうな場合は、白杖によりSOSのシグナルを示していなくても、声をかけてサポートをします。



障害者のための国際シンボルマーク

障害者が利用できる建物、施設であることを明確に表すための世界共通のシンボルマークです。駐車場などでこのマークを見かけた場合には、障害者の利用に配慮します。

※このマークは「すべての障害者を対象」としたものです。特に車椅子を利用する障害者を限定し、使用されるものではありません。

視覚障害とクライミング

これから話すエピソードは、日本パラクライミング協会共同代表の小林幸一郎氏が、視覚障害がある方と一緒にクライミングを楽しむためのコツとして話されていた内容の一部を編集したものです。

やってほしくないことが1つだけあるんです。何かというと、目が見えている皆さんは、障害のある方に優しいんです。そのため、「一緒にクライミングをしましょう」というと、目が見えている皆さんは障害のある方に、壁を登らせてあげたくなっちゃうんです。

クライミング用の人工の壁には、ホールドという突起物があります。難易度に応じて使用できるホールドが異なるため、ホールドにはテープなどで印がつけられています。視覚障害者には、どのホールドにテープがついているのかわからないので、それを目が見えている皆さんに補ってほしい。でも、もし皆さんが「両手で持って足上げて、そう、そこで手を上げたらね、また右手でなんとか・・・」という風にしてしまうと、目が見えない人は、まるで目が見えている人の操り人形になってしまうのです。確かに皆さんは優しく、助けてあげているのかもしれないけれど、それではクライミングの一番楽しいところを奪っているかもしれないですよ。

出典：令和4年度 上都賀地区人権教育指導者一般研修「人権ふれあいフェスタ」
講演「見えない壁だって、越えられる。」

日本パラクライミング協会共同代表 小林 幸一郎氏 より